朝の見守り活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。
見守り安全部は子どもたちがより安心・安全に登校できるように活動をすすめております。
子どもたちだけでなく、保護者様にも安全に活動を行っていただくため、横断旗の使用方法や、誘導時の注意点などを、交通安全教室の講習内容をもとにまとめました。
ぜひ参考にしていただき、今後もご協力の程よろしくお願い致します。

① 安全に誘導するために

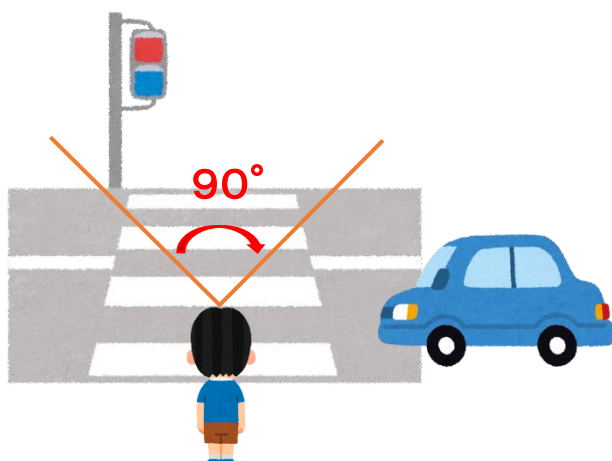
●車から見やすい、目立つ服装
●動きやすい、かかとの低い靴
●雨の時はレインコート着用
（傘を持つ場合は、高く上にあげて視界を確保する）
●乳幼児を連れていかない

②子どもの特性

●視野が狭い
・子どもの視野…９０°　大人の視野…１５０°
●目の高さが低い
・植木・電柱などで子どもが隠れてしまう（特に低学年の子ども）
➡子どもも車もお互いを見つけられない
●飛び出す
・何も見ずに飛び出してしまう、車が来ていないからと飛び出してしまう

☆ご家庭で子どもたちへ
お話してもらいたいこと☆

・左右の安全確認をするときは、
目だけではなく、顔を向けて行う

・いつも車を見つけるようにする

③誘導方法

●車からよく見える位置に立つ（木や電柱などで隠れないように）

●車道・横断歩道上には立たない

④横断旗の使い方

◎子どもたちを待たせるとき

・児童が横断したり、飛び出したりしないように、旗を地面と水平に持つ

・点字ブロックより後ろで待つように声をかける

（早く進みたくてどんどん前に出てきてしまったり、車道ギリギリで待つと車に巻き込まれてしまう）

◎車に止まってもらうとき

1．左右の安全を確かめる

2．旗を頭上に上げて、運転手に合図する

3．左手を使って、児童が飛び出さないように防ぐ

◎子どもたちを横断させるとき

1．車が止まってくれたら、もう一度左右の安全を確認する

（できれば児童と一緒に、自転車やバイクに注意）

2．旗を道路に出して、子どもたちを渡らせる

（このとき、車に背を向けないようにする）

3．横断するときは、子どもたちに手をあげるように声をかける

（下校時は保護者での見守り活動がありません。車から子どもを見つけやすくするため、家庭でもご指導をお願いいたします）

4．青信号が点滅したら、左手で後からくる子どもたちを止める

5．旗をいったん頭上に上げてから、旗を地面と水平に持ち、子どもたちを待たせる

☆兵庫県が進めている運動☆

横断歩道合図（アイズ）運動

信号機のない横断歩道では、歩行者とドライバーの両方が、手を挙げるとともに、目で合図（アイコンタクト）などを行うことによって、事故の防止を図る運動

横断歩道合図運動プラス運動

横断歩道の手前にあるダイヤマークを見たら、アクセルから足を離し、歩行者がいた場合に確実に停止できる準備をする

➡

➡

いぶきっこ応援団の村田さんにご協力いただきました

⑤見守り活動時の際の注意点

●あわてない

・自動車が並んでしまったり、児童が一気にきても、あわてず誘導する

●大きく、はっきりと

・自信をもって、わかりやすく、大きく、はっきり、テキパキと誘導する

●信号に従う

・青の点滅信号で子どもたちを横断させてはいけない

●車を待たせすぎないように注意する

・子どもたちに「運転手さんが待ってくれているから、早く渡ろうね」と声をかける

●自分の身を守る

・車道・横断歩道上には立たない

・やむを得ず出る場合は、自動車の脇を通り抜けてくるバイクや自転車に注意する

・車に背を向けない

●自動車に指示をしない

・横断旗には自動車を止める強制力はありません

・発進の指示もしない

●大型車は止めない

・大型車の後続車が前方を確認できずに衝突したり、バイクなどが大型車を
　追い越して事故につながる可能性がある

（止まってくださった場合は、安全を確認しながら子どもたちを誘導する）

●緊急車両の走行を優先する

・サイレンを鳴らした緊急車両が走行してきた場合、児童の横断を止め、緊急車両の走行を優先する

（反対側の児童にも声をかける）

●感謝の気持ちを持つ

・朝の出勤時間帯は、運転手にとっても貴重な時間なので、協力してくれた運転手に
　会釈するなど感謝の気持ちを伝える

⑥その他講習内容　自転車を安全に利用するために

●「自転車安全利用五則」を守る

●幼児用座席に座れるのは、小学校にあがるまでの子ども

・小学生以上の子どもを乗せた場合は、二人乗り扱いとなる

自転車安全利用五則

1.車道が原則、左側通行、歩道は例外、歩行者優先

2.交差点では信号と一時停止を守って安全確認

3.夜間はライトを点灯

4.飲酒運転禁止

5.ヘルメットを着用

※令和５年４月より、全ての利用者にヘルメットの着用が努力義務化されました！

事故が起きないように、見守り活動を行っていただく方、ドライバーの方、そして子どもたちにも安全に行動することを意識していただきたいです。

ご協力よろしくお願いいたします。

ご家庭で一度、交通ルールについて話し合ってみてください。